

情報メディア学会（2023 年度） 第 22 回研究大会 発表資料

2023 年 7 月 15 日（土） 都留文科大学 6 号館「Tsuru Humanities Center」
（ZOOM 併用ハイブリッド開催）

シンポジウム デジタルアーカイブのパーспекティブ 3

司会 日向 良和 氏（都留文科大学）
基調報告 福島 幸宏 氏（慶應義塾大学）
パネリスト 阿児 雄之 氏（東京国立博物館）
齊藤 有里加氏（東京農工大学）

ポスター発表

1. 学校における児童・生徒の学習資料活用：市立図書館・学校司書の連携の効果 5
青山志織（塩尻市立図書館）
2. 史上初の文学散歩の領域 9
岡野裕行、中村始桜、西潟史有香（皇學館大学）
3. 学校と図書館における MIE（雑誌利活用教育）の実証的研究 13
植村八潮（専修大学） 野口武悟（専修大学） 清水一彦（文教大学） 富川淳子（跡見学園女子大学）
山田健太（専修大学） 有山裕美子（滋賀文教短期大学）
4. ChatGPT による日本十進分類法（NDC）の分類記号付与の試み：一般補助表（形式区分、
地理区分、海洋区分、言語区分）の付加 17
角田裕之（鶴見大学）
5. Alexa とおばあちゃん 21
江頭満正（理化学研究所）
6. 公開査読(OPR)を実施しているプラットフォームの Web 調査 25
井野詩織、高久雅生（筑波大学）

プログラム

12:30	会場
12:45	Zoom 会場
13:00	開会あいさつ
13:05	シンポジウム 「デジタルアーカイブのパーспекティブ」
15:05	休憩
(15:15- 15:50)	総会（会員のみのご参加となります）
16:00	ポスター発表ライトニングトーク 賛助会員ライトニングトーク
16:40	ポスターディスカッション
17:30	表彰式、閉会あいさつ

シンポジウム

シンポジウム概要

【デジタルアーカイブのパーспекティブ】

日本においてブロードバンドが普及して以降、デジタルアーカイブもパイロットプロジェクトから、さまざま機関で実施されているサービスとなった。また、利用の自由度が高いライセンスで公開されている「オープンなデータ」も増え、社会での利用が一般化しつつある。

2023年5月に次世代型文化施設フォーラムは「博物館・図書館等を基盤とした地域文化資源の保全と活用を求める政策提言」を公開し現在意見を募集している。この提言の中ではデジタルアーカイブを基盤とし、これからの博物館・図書館の横断的な在り方について言及されている。また学術情報を中心に収集する大学図書館においても2023年1月に文科省の科学技術・学術審議会・情報委員会・オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会がまとめた「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について」では、国会図書館デジタルコレクションと分担しながら所蔵する資料、学術情報の積極的なデジタル化やメタデータの付与が大学図書館の役割として提示されている。

一方で、デジタルデータのフォーマットの寿命の問題、アーカイブ維持の費用の問題、アーカイブされた原資料の保存コストの問題などを未解決な問題も多い。本研究大会では、デジタルアーカイブ、オープンデータが社会をどう変えたのかについて、中間的なまとめをし、今後長期的な課題を挙げていくこと目的としたい。

登壇者プロフィール

【基調報告「デジタルアーカイブとはどういう営為かー過去・現在・未来」】

福島幸宏（ふくしまゆきひろ）

慶應義塾大学文学部准教授（有期）。大阪市立大学大学院文学研究科日本史学専攻単位取得満期退学（修士（歴史学）（京都府立大学））。元京都府立総合資料館、京都府立図書館職員。著書『デジタル時代のアーカイブ系譜学』（共著、みすず書房、2022）ほか。日本歴史学協会文化財保存特別委員会委員長。デジタルアーカイブ学会理事。これからの学術情報システム構築検討委員会委員。

【パネリスト（発表予定順、敬称略）】

阿児雄之（あこたかゆき）

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館学芸企画部博物館情報課情報管理室長。東京工業大学大学院情報理工学研究科計算工学専攻修了（博士（学術））。著書『ミュージアム・ライブラリとミュージアム・アーカイブズ』（水谷、長志編、分担執筆「東京国立博物館にお

ける情報連携事例から見るミュージアム情報の流通」樹村房, 2023) ほか。

齊藤有里加 (さいとう ゆりか)

東京農工大学科学博物館特任助教。明治大学大学院修了 (修士 (農学))。著書『大学生のための博物館学芸員入門』 (共著, 分担執筆, 範囲:47 - 48.71 - 72, 技報堂出版社, 2014 年) ほか。デジタルアーカイブ学会評議員。

【コーディネータ・司会】

日向良和 (ひなた よしかず)

都留文科大学共通教育センター教授。慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学専攻情報資源管理分野修了 (修士 (図書館・情報学))。著書『図書館とゲーム: イベントから収集へ』 (共著, 日本図書館協会, 2018) ほか。情報メディア学会理事。

ポスター発表

【予稿集】

学校における児童・生徒の学習資料活用

市立図書館・学校司書の連携の効果

青山志織

塩尻市立図書館

sa8751@city.shiojiri.lg.jp

学校図書館には「学習センター」の機能が求められているが、資料の提供において市立図書館との連携が欠かせない。2016 年からの貸出依頼を整理したところ、授業や単元に関する依頼は継続的にあったが、2022 年以降、依頼数と関わる単元が増加し、新指導要領や GIGA スクール構想により需要が高まっていることがわかった。今後、主体的・対話的な深い学びによる多様な問いに応える為、学校図書館と市立図書館の連携がより重要になる。

Use of learning materials by students in schools
Effectiveness of collaboration between librarians and school librarians

Shiori AOYAMA

Shiojiri City Library

1. はじめに

塩尻市では、市立図書館が学校図書館と連携し、学校司書の依頼に応じて資料の貸出を行っている。

本稿では、学習に対して市立図書館と学校司書が連携して資料を提供した場合、どのように活用されるかを授業や単元の側面から読み解く。

また、連携の範囲は、中学校、高等学校も含まれるが、本稿においては、小学校のみを対象とする。

2. 学校図書館の活用と主体的・対話的で深い学びについて

2016年に文部科学省が示した学校図書館ガイドラインでは、学校図書館の機能を「読書センター」「学習センター」「情報センター」とし、他の学校の学校図書館、公共図書館、博物館、公民館、地域社会等との連携に勤めること、特に学校図書館支援センターが設置されている場合には密接に連携し、支援を受けることが有効であるとしている。[1]

また、2020年に改正された小学校学習指導要領(平成 29 年告示)は、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の推進に重点においており、学校図書館を重要な存在と位置付けている。

総則「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の項目には、“学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること”[2]と記され、各教科の様々な授業での活用、児童生徒の主体的・意欲的な学習活動や探究活動を支援する役割を求められている。

しかし、現場の学校司書からは、GIGAスクール構想やインターネットの発達により授業での活用が減少したという声や、図書館が学びの場から取り残されるという危惧も聞かれる

3. 塩尻市における現状と学校連携事業

塩尻市は、長野県の中信地区に位置する人口 6

0 類	1 類	2 類	3 類	4 類	5 類
2%	1%	6%	6%	11%	5%
6 類	7 類	8 類	9 類	絵本	合計
3%	7%	2%	37%	19%	100%

万 7 千人の都市である。市内の学校数は、小学校 8 校、中学校 4 校、義務教育学校である小中学校 1 校、この他に辰野町と一部事務組合による中学校が 1 校ある(小学校は辰野町に立地)。

14 校の小中学校すべてに学校司書が配置され、全員が会計年度任用職員 3 種(旧臨時職員)、うち司書資格を有しているのは 13 人である。

学校図書館支援センターは設置していないが、2013 年に学校図書館連携強化事業「子どもの読書力パワーアップ事業」を開始し、市内小中学校の学校司書の人事を市立図書館に一元化、学校図書館と公共図書館の連携のために情報交換による相互の状況把握と補完体制を強化した。

現行の図書館サービス計画(後期)では、子どもの読書・学習環境の充実と教職員を中心とした学校現場への支援を強化するため、学校及び学校図書館との連携強化として 6 つの項目をあげており、本稿では「学校図書館が学習センターとして機能するよう公共図書館も教科・単元に沿った資料の収集、貸出について」を取り上げる。[3]

市内の小中学校図書館で、蔵書数が学校図書館図書標準を満たしているのは 9 校中 6 校、満たしていない学校も 90%以上の水準にある。一定の蔵書数は確保されているが、構成には偏りがみられる。2022 年度の市内小学校の蔵書配分比率を、表 1・図 1 にまとめた。

50%以上を読み物・絵本が占めており、学習での活用に耐えられる内容、出版年に絞れば、学習センターとして機能するのに十分と資料数とはいえない。だが、予算や規模を考えれば状況を変化させることは難しく、現状では市立図書館の資料を活用することが、現実的かつ効率的な方法といえる。

また、来館者以外へのサービスが難しい市立図書館にとっても、学校図書館を通じて多くの児童の学びに寄与することを成果として捉えている。

表 1：市内小学校の蔵書配分比率（2022 年）

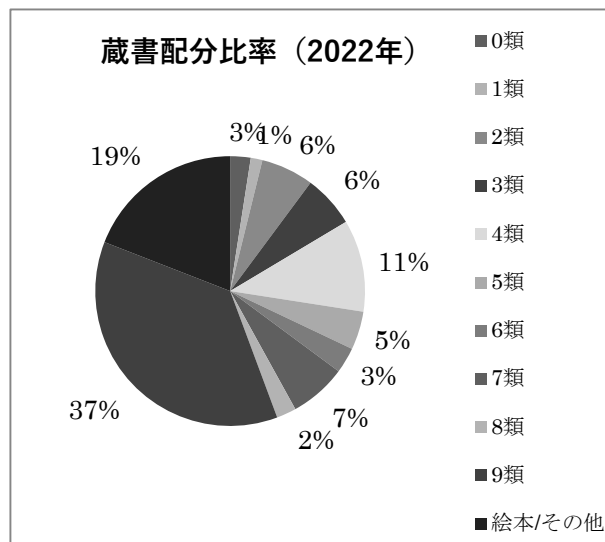


図 1：市内小学校の蔵書配分比率（2022 年）

3. 学校連携に関する事例と研究

「令和 2 年度 学校図書館の現状に関する調査」によれば、公共図書館と連携している小学校の割合は、86.0%、そのうち公共図書館から学校への貸出を行っている割合は、95.6%である。[4]

雑誌『学校図書館』の特集記事「もっと使おう公共図書館」[5]の事例では、貸出による学校と地域の図書館とのコミュニケーションの向上や、学校図書館セットの効果が示されている。

また、「学校図書館をめぐる連携と支援：その現状と意義」では、資料・人的資源・設備の貧弱な学校図書館を公共図書館がバックアップしている事例が多く、最も初歩的な支援は、学校図書館資料を補うために、公共図書館が学校図書館に団体貸出を行うことであるとしている。[6]

さらに「公立図書館の学校図書館との連携および学校図書館への支援：山口県内での実態調査をふまえて」では、学校図書館が公共図書館の役割の一部に過度に依存していることへの懸念もあげられている。[7]

4. 調査概要と結果

では、具体的にどのような依頼があり、資料を提供しているのか。塩尻市立図書館では、学校司書からの依頼に対して、職員が選書や運搬等の対応をする。依頼を受けた際、単元や教科を可能な限り聞き取り、2016年度から記録を開始した。

本稿ではこの記録を元に、授業活用に関する依頼について、特に教科書に掲載されている教科・単元に関わる依頼数を抽出し、市立図書館の資料がどの程度利用されたかを、依頼数、教科利用数、利用単元数から考察する。期間は2016年度から2022年度まで、範囲は小学校のみとする。（檜川小中学校については1～6年生を対象にした依頼を対象）。

「依頼数」は、学校図書館から寄せられた選書・調査・貸出依頼とし、資料名が特定されている本の貸出依頼と学級文庫の貸出依頼は除いた。依頼数の中には、委員会活動、支援が必要な児童への対応、教材研究、教員・児童の個人的な要望や問いに応えたものも含む。「教科利用数」は、教科書に掲載されている単元に対する依頼をのみとし、その回数を抽出した。修学旅行やクラス活動、総合的な学習に関する依頼は「教科利用数」に含まない。「単元数」は、教科で利用があったもののうち単元が特定できたものを集約し、細かい依頼内容に差異がある場合も、同一の単元で使用と思われるもの場合は1として数えた。調査結果を表1・図2にまとめた。

若干の増加傾向にあり、教科での利用回数は減少傾向にある。単元数は変化が少なく、若干の変動はあるが例年ほぼ同一の内容であり、教科は国語と社会に限られる。稀に理科や算数、図画工作に関する依頼もあったが、どれも単発で翌年には引き継がれていない。

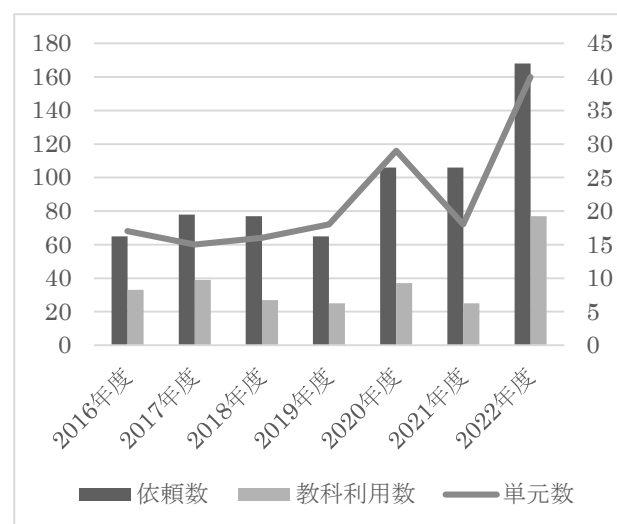


図2：調査結果

2020年度以降は、まず2020年度に依頼数と教科利用が増加し、単元数も大幅に増加した。2021年度の依頼数は変わらないが、教科利用と単元数は減少した。そして、2022年度は、依頼数、教科利用、単元数ともに増加している。

4. 考察

2016年度から2019年度まで、教科利用や単元数の変化が乏しかったのは、当時の学習指導要領で、資料を使った学習は国語と社会、総合的な学習の時間に限定されており、総則に“学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること”[8]という一文があったものの、あらかじめ想定された単元や総合的な学習の時間以外に、図書館を使った学習が波及しなかった。

2020年度に教科利用数と単元数が増加したのは、学習指導要領が改訂され、主体的・対話的で深い学びの推奨により、調べ学習や探究学習に関わ

表2：調査結果

年度	依頼数	教科利用数	単元数
2016	65	33	17
2017	78	39	15
2018	77	27	16
2019	65	25	18
2020	106	37	29
2021	106	25	18
2022	168	77	40

2016年度から2019年度にかけては、依頼数は

る単元が増えたことが影響している。更に各教科を横断的にとらえた学校図書館の利活用を推奨されたことにより、従来行っていた教科や単元以外にも図書館を使った学習が浸透した。

2021 年度には塩尻市でもタブレット端末と通信ネットワークを整備した GIGA スクール構想の運用を開始した。2021 年度の教科利用数と単元数が減少したのは、GIGA スクール構想により、昨年度は図書館を使っていた学習が、端末とインターネットを用いる形に変化した結果だと考えられる。

しかし、2022 年度は、教科利用数と単元数が大幅に増加し、理科・生活・英語等の今までにない教科からも依頼があった。GIGA スクール構想により学校図書館の利活用の減少が危惧されているなか、塩尻市では増えている。

これは、新学習指導要領で推奨された探究的な学習が、GIGA スクール構想により、より多くの教科や単元に波及し、情報端末の活用と同時に本の需要も高まり、端末と紙の資料を使ったハイブリット型の学習に移行したために教科での活用と関連する単元が増加したものと考えられる。

5. おわりに

小学校の授業や単元において図書館の資料は継続的に活用されており、新指導要領や GIGA スクール構想により需要が更に深まっている。

主体的・対話的な深い学びの理念では、個々の問いかけによって、調べる内容や方向性が変わる。今後、学校図書館の役割は、資料提供からコンサル的な支援にシフトしていく可能性が高い。

そして多様な問いに対応するために、豊富な図書購入予算と一般書も含めた幅広い収集方針をもつ市立図書館の資料を学校で活用する連携がより重要になる。

また、今回使用した依頼記録は、依頼状況を整理・共有するための覚書からはじまったもので、統計としての整合性が薄い。特に注目した 2020 年度からは新型コロナによりイレギュラーな状況下にあった。今後も動向を注視し、統計の精度をあげた

記録の継続が必要である。さらに、図書館に勤務していると日々の対応に追われて、俯瞰的な目を持ちにくい。個々の職員が自館の業務や取り組みを、包括的に分析する目を養っていく必要がある。

6. 注・文献

- [1] 文部科学省 “学校図書館の整備充実について（通知）別添 1「学校図書館ガイドライン」” 2016
- [2] 文部科学省 “小学校学習指導要領（平成 29 年告示）総則” 2017,p23
- [3] 塩尻市立図書館 “図書館サービス計画 後期 2021（令和 3）年度から 2023（令和 5）年度まで” 2021,p21
- [4] 文部科学省 “令和 2 年度 学校図書館の現状に関する調査 “（令和 3 年 7 月 29 日発表 令和 4 年 1 月 24 日修正）,p13
- [5] 全国学校図書館協議会,特集もっと使おう公共図書館——上手な連携に向けて. 学校図書館. 2023, vol 870
- [6] 岩崎れい,“学校図書館をめぐる連携と支援：その現状と意義”. カレントアウェアネス No.309. 2011-9-20.
<https://current.ndl.go.jp/ca1755>
(参照 2023-6-10).
- [7] 安光裕子. “公立図書館の学校図書館との連携および学校図書館への支援：山口県内での実態調査をふまえて”. 山口県立大学学術情報 11 巻,2018,p. 61-66
- [8] 文部科学省 “小学校学習指導要領（平成 10 年 12 月告示,15 年 12 月一部改正）総則” 1998.

【予稿集】

史上初の文学散歩の領域

岡野裕行*, 中村始桜**, 西潟史有香***

皇學館大学文学部国文学科*,**,***

*h-okano@kogakkan-u.ac.jp

文学散歩は 1950 年末に野田宇太郎によって考案された取組みである。今日では全国各地でその実施事例が確認できるように、文学散歩という用語は既に普通名詞として定着を見せている。しかし、その原型となる野田の文学散歩がどのような地域情報資源をその領域のなかに捉え、その成果として何を提示したのかが忘れ去られている。本発表では史上初の文学散歩で言及された日本文学関連用語を調査することで、文学という観点から野田が捉えようと試みた東京のまちの対象領域を明らかにする。

Areas covered by the first literary walk in history

Hiroyuki OKANO*, Shio NAKAMURA**, Shuka NISHIKATA***

*,**,***Department of Japanese Literature, Faculty of Letters, Kogakkan University

1. はじめに

野田宇太郎は 1950 年末に文学散歩を考案し、翌 1951 年から『日本読書新聞』紙上で連載した後、単行本『新東京文学散歩』を上梓する。これが後に全国各地へと波及する文学散歩の初の事例である。当初は戦災によって変貌した東京の様子を記録に残すこと（文学アーカイブ）を目的に野田が個人で行ったものだが、その後に全国各地の図書館などで模倣され始め、まちづくりやウィキペディアタウンの取組みにもつながる公共的な活動へと変容する[1][2]。

今日では野田の思惑とは異なる形で各地に拡大しており、文学散歩の考案当初の目的やその対象領域が忘れ去られている。本研究では東京のまちに点在する文学情報資源を野田がどのように捉えていたのかについて、その最初期の事例をもとに考察を行う。

2. 『新東京文学散歩』収録の索引項目

野田の『新東京文学散歩』には 1,075 項目に及ぶ丁寧な索引が付与されている。その内訳は、「人」257 項目、「書名及作品名」265 項目、「雑誌及新聞名」51 項目、「会名」31 項目、「町名及地名」168 項目、「建物」117 項目、「墓碑及記念碑」51 項目、「神社仏閣及墓地」46 項目、「橋」51 項目、「川及河岸」21

項目、「坂」17 項目となる。これらの全情報を索引種別ごとにまとめたものが表 1～11 である。また、『新東京文学散歩』に登場する全項目数に関する出現頻度とその累積数をまとめたものが表 12 である。

表 1「人」に関する項目名では、38 回登場する「島崎藤村」がもっとも多い。これは全体を通して最大となる数である。これ以降は 28 回の「森鷗外」、27 回の「尾崎紅葉」「北原白秋」「木下杢太郎（太田正雄）」、23 回の「永井荷風」「夏目漱石」、20 回の「徳田秋声」、19 回の「小山内薫」、18 回の「正岡子規」、17 回の「泉鏡花」などの名前が並ぶ。

表 2「書名及作品名」に関する項目名では、7 回の佐藤春夫『美しい町』、6 回の夏目漱石『三四郎』と北原白秋『邪宗門』、5 回の島崎藤村『破戒』、徳富蘆花『みみずのたはこと』、国木田独步『武蔵野』、夏目漱石『吾輩は猫である』などが並ぶ。

表 3「雑誌及新聞名」に関する項目名では、10 回の『スバル』『明星』、9 回の『文学界』『我楽多文庫』『三田文学』、6 回の『新思潮』、5 回の『アララギ』『白樺』『文章世界』『早稲田文学』などが並ぶ。

表 4「会名」に関する項目名では、24 回の「パンの会」（北原白秋・木下杢太郎・長田秀雄・吉井勇ら）、20 回の「硯友社」（尾崎紅葉・山田美妙・石橋思案

ら), 10 回の「龍土会」(柳田国男・国木田独歩・田山花袋・蒲原有明・島崎藤村ら), 7 回の「芸術座」「自由劇場」「根岸短歌会」などが並ぶ。

表 5「町名及地名」に関する項目名では, 16 回の「銀座」(小山内薫ら), 15 回の「横寺町」(尾崎紅葉・小栗風葉ら), 14 回の「新片町」(島崎藤村ら), 13 回の「飯田町」(木下杢太郎・北原白秋・尾崎紅葉ら), 12 回の「余丁町」(坪内逍遙・永井荷風ら), 10 回の「飯倉片町」(島崎藤村ら), 「中洲」(佐藤春夫・小山内薫ら) などが並ぶ。

表 6「建物」に関する項目名では, 22 回の「東京大学」, 15 回の「早稲田大学 (東京専門学校)」, 10 回の「観潮楼」, 8 回の「紅葉館」「子規庵」, 7 回の「慶應義塾大学」「東京物理学校」「馬琴の井戸」「龍土軒」, 6 回の「漱石山房」「偏奇館」などが並ぶ。

表 7「墓碑及記念碑」に関する項目名では, 7 回の「北原白秋墓」, 5 回の「落合直文歌碑」, 4 回の「伊藤左千夫墓」「小山内薫墓」「夏目漱石墓」「森鷗外墓」, 3 回の「内田魯庵墓」「木下杢太郎墓」「芸術比翼塚」「小泉八雲墓」「徳田秋声旧居跡碑」などが並ぶ。

表 8「神社仏閣及墓地」に関する項目名では, 7 回の「雑司ヶ谷墓地」, 6 回の「瘤寺 (自證院)」, 「多摩墓地」, 5 回の「赤城神社」「萩寺 (龍眼寺)」, 「谷中墓地」, 4 回の「浅草寺」「多聞院」「毘沙門天」「湯島天神」などが並ぶ。

表 9「橋」に関する項目名では, 10 回の「永代橋」「日本橋」, 8 回の「両国橋」, 5 回の「新大橋 (隅田川)」, 「柳橋」などが並ぶ。

表 10「川及河岸」に関する項目名では, 15 回の「隅田川」, 13 回の「大川端」, 6 回の「玉川上水 (桜上水)」, 「日本橋川」などが並ぶ。

表 11「坂」に関する項目名では, 7 回の「神楽坂」「中坂」, 4 回の「植木坂」, 3 回の「新坂 (本郷森川町)」, 「団子坂」「狸穴坂」「無縁坂」などが並ぶ。

3. 本研究で明らかになったこと

①文学散歩のイメージ形成 (文学散歩らしさ) に大きく寄与したのは「パンの会」に集った明治の文豪たちであり, 野田は日本近代文学史のなかでも同会の存在を重要視していたと思われる (野田に

は「パンの会」を論じた著作もある[3])。

●特に「パンの会」中心メンバーの木下杢太郎・北原白秋・吉井勇らの登場回数が多く見られる。

●『スバル』『三田文学』『新思潮』『白樺』といった「パンの会」に関わる雑誌名も頻出している。

●「橋」の区分で登場回数が多い「永代橋」「日本橋」「両国橋」などの項目名は, 「パンの会」の開催場所との関連性が強いものばかりである。

②尾崎紅葉・山田美妙・石橋思案ら「硯友社」の関係者の名前が複数回登場しているように, 登場回数が多い「会名」は, それに関連する人物・雑誌名・地名も必然的に増加させる傾向にある。

③作中に登場する作家は, 幕末から明治初期に生まれて 1945 年の終戦前には没していた者が多い。

●作中での登場回数の多い作家は, その墓地や記念碑なども訪ね歩いていることが多い。

④作家名が重要視される (話の切り口とする) 場所と, 作品名が重要視される場所が見られる。

●登場回数の多い島崎藤村や森鷗外らは, その作家名が作品・活動・暮らしなどと関連した記述となることが多いため, 登場回数も多くなる。

●一方, もっとも多く登場した作品名は『美しい町』だが, その著者である佐藤春夫の名前は作中でわずかに 1 回のみの言及となっている。

⑤「町名及地名」に関する項目名でもっとも出現回数が多い「銀座」は, 同書の巻頭カラー写真にも取り上げられる (歌舞伎座附近) など, 東京のなかでも野田が特に重要視した地域だと推測される。

⑥1 回のみ登場する項目名も多く見られるが (表 12 より全体の 20.8%), そこにはまちの記録を幅広く書き残そうとする野田の思いが込められている。

注・文献

- [1] 岡野裕行. “文学散歩と図書館”. 図書館界. 2023, vol.75, no.1, p.34-55.
- [2] 岡野裕行. “三つの文学散歩: 野田宇太郎からウィキペディアタウンへ”. 日本近代文学. 2022, vol.106, p.160-175.
- [3] 野田宇太郎. パンの会: 近代文芸青春史研究. 六興出版社, 1949, 282p.

表1：『新東京文学散歩』に登場する「人」一覧

登場回数	人	の項目名【全257項目】
38	島崎藤村	【1】
28	森鷗外	【1】
27	尾崎紅葉, 北原白秋, 木下杢太郎 (太田正雄)	【3】
23	永井荷風, 夏目漱石	【2】
20	徳田秋声	【1】
19	小山内薫	【1】
18	正岡子規	【1】
17	泉鏡花	【1】
16	島村抱月	【1】
15	国木田独步	【1】
14	小泉八雲, 吉井勇	【2】
13	坪内逍遙	【1】
11	石川啄木, 巖谷小波, 樋口一葉	【3】
10	伊藤左千夫, 幸田露伴, 松井須磨子	【3】
9	菊池寛	【1】
8	内田魯庵, 北村透谷, 与謝野寛	【3】
7	芥川龍之介, 川上眉山, 寒川鼠骨 (陽光), 田山花袋, 徳富蘆花 (健次郎), 長田秀雄	【6】
6	蒲原有明, 滝沢馬琴, 谷崎潤一郎, ツルゲエネフ, 広津柳浪, 二葉亭四迷, 正宗白鳥, 山田美妙	【8】
5	有島生馬, 石橋思案, 上田敏, 小栗風葉, 落合直文, 里見淳, 武田麟太郎, トルストイ, 長谷川天来, 馬場孤蝶, 平野万里, 三木竹二 (森篤二郎), 水上瀧太郎	【13】
4	有島武郎, 生田葵山, 石井柏亭, イブセン, 齋藤阿具, 高村光太郎, 太宰治, 戸川秋骨, 徳富蘇峰 (猪一郎), 広津和郎, 福沢諭吉, 柳田国男	【12】
3	伊井峯隆, 生田長江, 泉斜汀, 市川左團次, 岩野泡鳴, 江見水蔭, 岡田八千代, 押川春浪, 賀古鶴所, 香取秀真, 木村莊八, 小林清親, 近松秋江, 豊島与志雄, 中沢臨川, 日夏耿之介, 丸岡九華, 与謝野晶子	【18】
2	饗庭篁村, 市川猿之助, 岩村透, 宇野浩二, 大隈重信, 太田圓三, 大町桂月, 岡田三郎助, 岡麓, 織田一磨, 仮名垣魯文, 金子馬治 (筑水), 加能作次郎, 上小判, 川端康成, 久米正雄, 蕨真, 小島政二郎, 西條八十, 茂野冬暮, 鈴木春信, 高浜虚子, 武林無想庵, 谷崎精二, 網島梁川, 長塚節, 中村不折, 平田亮木, 平福百穂, ブランデン, 前田罷, 松山省三, 三宅克己, 武者小路実篤, メーテルリンク, 森田思軒, 森田卓平, 柳川春葉, 山本鼎, ワーゾフス	【30】
1	青木繁, 五十嵐力, 生田春月, 池田大佐, 石橋忍月, 市河三喜, 市村瓊次郎, 伊藤並根, 井上通泰, 伊原青青園, 今井白楊, 今村紫紅, 浦瀬白雨, 大下藤次郎, 大塚楠緒子, 岡倉天心, 岡村千秋, 尾上柴舟, 恩地孝四郎, 梶井基次郎, 数井市助, 片上伸, 葛飾北斎, 加藤武雄, 金子薫園, 河井醉茗, 河合武雄, 川崎千虎, 河竹黙阿弥, 川田順, 河東碧梧桐, 金田一京助, 陸羯南, 国枝史郎, 久保猪之吉, 久保田米庵, 久保田万太郎, 倉田白羊, 黒田湖山, 黒田清輝, 幸田文, 幸堂得知, 幸徳秋水, 小金井喜美子, 小杉未醒, 後藤新平, 小林萬吾, 小宮豊隆, 西園寺公望, 笹川臨風, 佐佐木信綱, 佐藤惣之助, 佐藤春夫, 佐土哲二, 里見勝蔵, シェクスピア, シエツツエル, 志賀直哉, 司馬江漢, 島崎駒子, 白石美三, 神西清, 末広鉄腸, 杉村楚人冠, 須藤南翠, 関根只好, 高橋お伝, 高橋健三, 高橋太華, 宝井其角, 竹越三郎, 竹久夢二, 辰野金吾, 辰野隆, 田中凉花, チェンパレン, 辻潤, 寺木定芳, 寺田寅彦, 土肥春曙, 東海散士, 東儀鉄笛, 徳田一穂, ドストエフスキイ, 富岡永流, 内藤鳴雪, 直木三十五, 中西悟堂, 中西梅花, 中村白葉, 中村武羅夫, 中山省三郎, 中山白峰, 半井桃水, 檜崎閑運, 野口米次郎, 花田比露思, 人見東明, 火野葦平, 平井功, 平出修, 藤井紫明, 藤田隆三郎, 星野夕影, 星野天知, 正富汪洋, 松尾芭蕉, 松崎天民, 松波治郎, 三上於菟吉, 三木露風, 三井甲之, 三宅雪嶺, 宮崎三味, 宮嶋資夫, 室生犀星, 室伏高信, 森口多里, 森しげ子, 森静男, 森田恒友, 安江不空, 柳敬助, 柳田泉, 山内秋生, 山内義雄, 横光利一, 横山健堂, 吉田白甲, 依田秋園, ラファエル・ケーベル, 鷲尾雨工, 和田英作, 和田三造	【134】

表2：『新東京文学散歩』に登場する「書名及作品名」一覧

登場回数	書名及作品名	の項目名【全265項目】
7	美しい町	【1】
6	三四郎, 邪宗門	【2】
5	破戒, みみずのたはこと, 武蔵野, 吾輩は猫である	【4】
4	於母影, 自然と人生, 大東京繁昌記, たけくらべ	【4】
3	田舎教師, 大川端, 片恋 (詩・白秋), 徹, 山林に自由存す (詩・独歩), 縮図, 東京案内, 春, 日と下駄, 不如帰, 武蔵野の記録, 有楽門	【12】
2	足跡, あらくれ, 荒布橋, 飯倉附近, 生ける屍, 色懺悔, 歌よみに与ふる書, 江戸名所図会, 思い出す人々, 思い出, 思い出の記, 仮装人物, 雁, 硯友社の勃興と道程, 五重塔, 桜の葉の熟する時, 沙羅の木, 食後の唄, ジョン・ガブリエル・ボルクマン, 新春, 爛, 千曲川のスケッチ, 東京景物詩及其他, 独歩吟, 日本橋, 野菊の墓, 箱館屋 (詩・鉄幹), 復活, 墨汁一滴, モンナ・ワンナ, 湯島詣, 獵人日記, 和解, 早稲田神楽坂	【34】
1	あかあかと (歌・勇), 浅草の (歌・啄木), 朝なり (詩・有明), 欺かざるの記, 天の河縁起, あめりか物語, 嵐, 在りし日 (詩・著者), 有島武郎著作集, アンナ・カレーニナ, 家, 異国情趣と回顧, 異国情調, 和泉屋染物店, いちばつの (句・子規), 今戸心中, 妹山背山, 浮雲, 牛飼が (歌・左千夫), 失はれたるモノ・リザ (詩・光太郎), うたかたの記, 海の夫人, 運命の丘, 運命論者, 永代橋工事 (詩・李太郎), エトランゼエ, エマルソン, 縁先に (歌・子規), 大阪, 大阪の宿, をとひの (歌・子規), 小野のわかれ, 思い出すことなど, カーイル博物館, 貝殻道放, 回光録, 灰燼, 凱旋, 怪談, 怪談月並森, 海潮音, 崖, 佳人之奇遇, 硝子戸の中, かるい背広を (詩・白秋), 河内屋, 北原白秋君, 旧主人, 仰臥漫録, 清盛, 桐の花, 銀座の雨 (詩・白秋), 銀座八丁, 雲のゆくえ, クレオパトラ, くれなゐの (歌・子規), くれの廿八日, 黒い目と茶色の目, 黒潮, 勲章, 群言, 幻談, 孝女白菊の歌 (詩・直文), 行人, 紅茶の後, 坑夫, 五月の頌歌 (詩・李太郎), 黄金丸, 極楽の (句・小波), 心 (漱石), 心 (八雲), 孤城落月, 骨董, 琴の音, 金色夜叉, SAFFRAN (詩・李太郎), サロメ, シェクスピア全集, 鹿狩, 刺青 (セイ), 死なば秋 (句・紅葉), 島村家史, 蠹魚の自伝, 邪宗門扉銘 (詩・白秋), 三味線堀, 重右衛門の最後, 後寛僧都島物語, 殉情詩集, 春鳥集, 少年, 少年の悲哀, 女給, 食後, 食堂, 知られぬ日本の面影, 新片町より, 神国日本, 震災 (詩・荷風), 新生, 新世帯, 新体詩抄, 新著百種, 新羽衣物語, 酔狂も (歌・勇), すみだ川, 生, 青春物語, 青年, 世界国尽, 雪中梅, 楚囚之詩, 其面影, 其の頃のブランタン, 空に真赤な (詩・白秋), それから, 痕一斗 (句・子規), 断腸亭雜記, 茶博士を (歌・子規), 提燈に (歌・勇), 築地の渡し (詩・李太郎), 月や秋 (句・蝶舎一堂), 田園の憂鬱, 東京行進曲 (流行歌・八十), 東京の三十年, 当世書生氣質, 藤村集, 藤村全集, 都会の憂鬱, 囚はれたる文芸, 内部, 夏うぐひす (詩・荷風), 夏草, 夏木立, 夏目漱石, なまけもの (詩・光太郎), 南総里見八犬伝, 南地心中, 南蛮寺門前, にごりえ, 日本お伽噺, 日本から日本へ, 日本雑事, 萩寺の (歌・直文), バクダン, 猿の舌, はしたものの (句・紅葉), 馬上の友, 畑, 初冬や (句・紅葉), 初紅葉, 鼻, 春の鳥, バンの会と屋上庭園, バンの会の (歌・勇), 東の園から, 彼岸過迄, 眉山珍文, 非戦闘員, 一葉船, 百草図譜 (未刊画稿・李太郎), 病間録, 病牀六尺, 笛の音 (詩・直文), 仏土の落穂, 物理学校裏 (詩・白秋), 蒲田, 文学評論, 分家, 文士の生活, 平凡, 糸灰咲いて (句・子規), 偏奇館吟草, 濃泉綺譚, 蓬萊曲, 奔流, 舞姫, マクベス, 窓, 幻影の盾 (マボロシノタテ), 道草, 三つの窓, 明暗, 妄人妄語, 門, 藪柑子, 山の手廻り, 山の手の子, 闇の力, 夕潮, 由縁の女, 四年寝て (歌・子規), 錯橋 (詩・著者), 落梅集, 羅生門, 律子と瑞枝, 両国の (歌・勇), 両国 (詩・李太郎), 緑菫春調 (詩・李太郎), 緑葉集, 林下の黙想 (詩・白秋), 緑浪の人, 雷岸島の自殺, 雲の日本, 老年, 六ヶ部集, 倫敦塔, 若き日の小山内薫, 若葉集	【208】

表3：『新東京文学散歩』に登場する「雑誌及新聞名」一覧

登場回数	雑誌及新聞名	の項目名【全51項目】
10	スバル, 明星	【2】
9	文学界, 我楽多文庫, 三田文学	【3】
6	新思潮	【1】
5	アララギ, 白樺, 文章世界, 早稲田文学	【4】
3	馬酔木, 屋上庭園, 国民之友, しがらみ草子, 方寸, ホトトギス	【6】
2	阿加雲, アカネ, 朝日新聞, 歌舞伎, 国民新聞, 新小説, 新著月刊, 千紫万紅, 文庫, 読売新聞, 万朝報	【11】
1	あけび, 江戸紫, 改造, 歌集日本, 狂言綺語, 経済往来, 心の花, 時事新報, 七人, しほらの, 女学雑誌, 人生と表現, 新潮, 太陽, 帝国文学, 日本人, 日本新聞, 文芸倶楽部, 文庫, 文章倶楽部, 平和, 万年艸, 都新聞, 都の花	【24】

表4：『新東京文学散歩』に登場する「会名」一覧

登場回数	会名	の項目名【全31項目】
24	バンの会	【1】
20	硯友社	【1】
10	磯土会	【1】
7	芸術座, 自由劇場, 根岸短歌会	【3】
5	文芸協会	【1】
4	木曜会	【1】
3	新声社 (S・S・S)	【1】
2	観潮楼歌会, 子規庵保存会, 新詩社, 根岸党, 橋の会	【5】
1	浅香社, あららぎ会, いかづち会, 雨声会, 易風会, 鷗外記念会, 先声会, 琴天会, 車前草社, 白菊会, 新体詩同好会, 水弘会, 青楊会, 道閑会, 白馬会, 番町会, 凡骨会	【17】

表5:『新東京文学散歩』に登場する「町名及地名」一覧

登場回数	町名及地名	の項目名【全168項目】
16	銀座	【1】
15	横寺町	【1】
14	新片町	【1】
13	飯田町	【1】
12	余丁町	【1】
10	飯倉片町, 中洲	【2】
9	神楽坂町	【1】
8	浅草, 駒込千駄木町, 西大久保, 六番町	【4】
7	明石町, 上野花園町, 駒込西片町, 不忍池, 築地, 森川町, 早稲田南	【7】
6	尾張町, 上根岸町, 九段, 小金井町(武蔵), 田端町, 佃島, 柳橋, 矢来町	【8】
5	新吉原, 月島, 富久町, 曳舟, 深川, 丸山福山町, 三鷹, 竜泉寺町	【8】
4	大伝馬町, 蟻殻町, 粕谷, 菊坂町, 三四郎の池, 芝公園, 下根岸町, 新宿, 高輪南町, 寺島町, 東大久保, 日比谷公園, 南横町, 向島, 竜土町	【15】
3	市兵衛町, 雷門, 小網町, 境(武蔵), 新川町, 竜岡町, 玉の井, 箱崎町, 百人町, 瓢箪新道, 狸穴町, 室町, 柳島	【13】
2	井の頭公園, 入船町, 上野公園, 上野広小路, 越中島, 太田ヶ原, お茶の水, 表町(文京), 小伝馬町, 新佃島東町, 隅田公園, 筆筈町, 佃町, 佃の渡し, 通寺町, 日暮里町, 日本堤, 人形町, 馬道, 馬場下町, 浜町, 日吉町, 富士見町, 弁天町, 真砂町, 三ノ輪町, 元園町, 門前仲町, 柳町(牛込), 矢ノ倉町, 有楽町, 湯島, 湯島新花町, 両国, 雲岸島, 蘆花公園(恒春園)	【36】
1	赤城下町, 揚屋町, 阿佐ヶ谷, 阿部公園, 市ヶ谷見附, 今戸町, 上野桜木町, 牛込加賀町, 越前堀, 霞ヶ関, 霞門, 兜町, 河田町, 紀尾井町, 喜久井町, 北山伏町, 吉祥寺, 蔵前片町, 木挽町, 駒込追分町, 駒込肴町, 駒込動坂町, 幸門, 佐賀町, 桜門, 七軒町(台東), 新富町, 神保町, 晴海町, 雑司ヶ谷, 高田老松町, 高輪北町, 高輪台町, 多摩村, 田村町, 千歳村, 角筈, 寺島新田, 天神町, 富坂(文京), 豊洲, 中里町, 中根岸町, 錦町, 西幸門, 二本榎, 馬喰町, 八丁堀, 花川戸, 久堅町, 平河町, 堀留, 待乳山, 見返り柳(新吉原大門), 三河台町, 三田台町, 向島公園, 武蔵野市, 矢ノ倉公園, 弥生町, 有楽町, 湯島公園, 湯島天神下町, 弓町, 代々木山谷, 両国緑町, 六本木, 若松町, 早稲田鶴巻町	【69】

表6:『新東京文学散歩』に登場する「建物」一覧

登場回数	建物	の項目名【全117項目】
22	東京大学	【1】
15	早稲田大学(東京専門学校)	【1】
10	観潮楼	【1】
8	紅葉館, 子規庵	【2】
7	慶應義塾大学, 東京物理学校, 馬琴の井戸, 龍土軒	【4】
6	漱石山房, 偏奇館	【2】
5	海水館, 藝術倶楽部, 天王寺五重塔, 真砂座, 明治学院	【5】
4	永代亭, 演説館(三田), 恒春園, 大学病院, 澄江堂, 築地小劇場, 有楽座, 読売新聞社	【8】
3	国学院大学, 国民新聞社, 三州屋, 成女学園, 清風亭(長生館), 第一やまと, 双葉女学校, 明治座, ライオン, 凌雲閣(十二階), 早稲田演劇博物館, 早稲田小学校	【12】
2	朝日新聞社, 飯塚酒店, イグナチオ教会, 都文館中学, 偕行社, 蓋平館別荘, 蛸牛庵, 硯友社, 国技館, 資生堂, 秀光舎(同益社), 末広亭, 精養軒, 赤心館, 千栄山房, 泰明小学校, 断腸亭, 東京駅, 東京日日新聞, 十千万堂, 富久小学校, 長田医院, ニコライ堂, 二天門, 博文館, 百花園(向島), 藤田医院, プランタン, 文藝春秋社, 丸善, 丸見屋, 明治女学校, メイゾン鴻の巣, メトロポール(ホテル), よか楼	【35】
1	岩谷天狗, 牛込亭, 屋上庭園発行社, 偕楽園, 快楽亭, 我猫庵, 歌舞伎座, 紀の善寿司, 喜之床, 暁星学園, 講談社, 国立第一銀行, 三緑亭, 順天堂病院, 上智大学, 聖路加病院, 千足屋, 千里閣, 台湾喫茶店, 高輪台町教会, 高松宮亭大名門, 宝亭, 帝国ホテル, 東京音楽学校, 東京商船学校, 東京美術学校, 独歩社, 日本新聞社, 日本美術院, パウルスタ, 箱館屋, 服部時計店, 二葉亭四迷旧邸, 文芸協会演劇研究所, 本郷座, 毎日新聞社, 都川, 民友社, 村山兄弟商会, 明治大学(明治法律学校), 唯真閣, 吉岡書店, 柳光亭, 柳風館, 鹿鳴館, 早稲田出版部	【46】

表7:『新東京文学散歩』に登場する「墓碑及記念碑」一覧

登場回数	墓碑及記念碑	の項目名【全51項目】
7	北原白秋墓	【1】
5	落合直文歌碑	【1】
4	伊藤左千夫墓, 小山内薫墓, 夏目漱石墓, 森鷗外墓	【4】
3	内田魯庵墓, 木下圭太郎墓, 芸術比翼塚, 小泉八雲墓, 徳田秋声旧居跡碑	【5】
2	泉鏡花墓, 岩野泡鳴墓, 菊池寛墓, 国木田独步詩碑, 小泉八雲旧居跡碑, 島村抱月墓, 鈴木春信碑, 太宰治墓, 夏目漱石旧居跡碑, 松井須磨子墓, ラファエル・ケーベル墓	【11】
1	泉鏡花筆塚, 大塚楠緒子墓, 押川春浪墓, 仮名垣魯文墓, 仮名垣魯文碑, 金子馬治墓, 高橋お伝墓, 田山花袋墓, 徳富健次郎墓誌, 徳富蘆花夫妻墓, 直木三十五追悼碑, 中山省三郎墓, 馬場孤蝶墓, 平井功(ロベス)墓, 平福百穂墓, 広津柳浪墓, 正岡規遺言碑, 水上瀧太郎墓, 名勝小金井桜碑, 森鷗外旧居跡碑, 森しげ子墓, 森静雄墓, 森篤次郎(三木竹二)墓, 横光利一墓	【24】

表8:『新東京文学散歩』に登場する「神社仏閣及墓地」一覧

登場回数	神社仏閣及墓地	の項目名【全46項目】
7	雑司ヶ谷墓地	【1】
6	瘤寺(自證院), 多摩墓地	【2】
5	赤城神社, 萩寺(龍眼寺), 谷中墓地	【3】
4	浅草寺, 多間院, 毘沙門天, 湯島天神	【4】
3	禪林寺, 長光寺, 抜弁天	【3】
2	亀戸天神, 護国寺, 白鬚神社, 大円寺, 大信寺, 大龍寺, 天王寺(感應寺), 根津権現	【8】
1	穴八幡社, 永久寺, 映世神社, 笠森稻荷, 香取神社, 寛永寺, 神田明神, 鬼子母神, 弘福寺, 清松寺, 水天宮, 諏訪神社, 誓閑寺, 増上寺, 雑司ヶ谷崇祖堂, 大音寺, 築地八幡, 築地本願寺, 伝通院, 東照宮, 乃木神社, 普門院, 待乳山聖天, 靖国神社, 湯島聖堂	【25】

表9:『新東京文学散歩』に登場する「橋」一覧

登場回数	橋	の項目名【全51項目】
10	永代橋, 日本橋	【2】
8	両国橋	【1】
5	新大橋(隅田川), 柳橋	【2】
4	女橋, 八重洲橋, 鍬橋	【3】
3	浅草橋, 吾妻橋, 荒布橋, 飯田橋, 江戸橋, 男橋, 青洲橋, 小金井橋, 桜橋, 思案橋(小網橋), 白髭橋, 数寄屋橋, 有楽橋	【13】
2	赤羽橋, あやめ橋, 一石橋, 今戸橋, 勝閑橋, 呉服橋, 東台橋, 豊海橋, 中洲橋, 聖橋, 三原橋	【11】
1	相生橋, 江戸川橋, お茶の水橋, 親爺橋, 海運橋, 鍛冶橋, 兜橋, 唐橋(空橋), 京橋, 蔵前橋, 駒形橋, 新橋, 水道橋, 常盤橋, 土橋, 中ノ橋, 弁慶橋, 万世橋, 三吉橋	【19】

表10:『新東京文学散歩』に登場する「川及河岸」一覧

登場回数	川及河岸	の項目名【全21項目】
15	隅田川	【1】
13	大川端	【1】
6	玉川上水(桜上水), 日本橋川	【2】
3	神田川, 十間川	【2】
2	藍染川, 明石町河岸, あやめ河岸, 魚河岸, 山谷堀, 浜町河岸, 深川河岸, 横十間川	【8】
1	牛ヶ淵, 江戸川, 鎌倉河岸, 新川, 多摩川, 錦町河岸, 矢の倉河岸	【7】

表11:『新東京文学散歩』に登場する「坂」一覧

登場回数	坂	の項目名【全17項目】
7	神楽坂, 中坂	【2】
4	楠木坂	【1】
3	新坂(本郷森川町), 団子坂, 狸穴坂, 無縁坂	【4】
2	女坂, 菊坂	【2】
1	伊皿子坂, 男坂, 切通坂, 九段坂, 新坂(赤坂), 鼠坂, 聖坂, ヤキモチ坂	【8】

表12:『新東京文学散歩』に登場する全項目数とその出現頻度

(A) 登場回数	(B) 全項目数	(C) 出現頻度 (A×B)	(D) 出現頻度の累積
		割合	割合
38	1	38	1.4%
28	1	28	1.0%
27	3	81	2.9%
24	1	24	0.9%
23	2	46	1.7%
22	1	22	0.8%
20	2	40	1.4%
19	1	19	0.7%
18	1	18	0.6%
17	1	17	0.6%
16	2	32	1.1%
15	4	60	2.2%
14	3	42	1.5%
13	3	39	1.4%
12	1	12	0.4%
11	3	33	1.2%
10	11	110	3.9%
9	3	27	1.0%
8	12	96	3.4%
7	25	175	6.3%
6	25	150	5.4%
5	41	205	7.4%
4	52	208	7.5%
3	94	282	10.1%
2	201	402	14.4%
1	581	581	20.8%
合計	1,075	2,787	100.0%

【予稿集】

学校と図書館における MIE（雑誌利活用教育）の実証的研究

植村八潮*, 野口武悟**, 清水一彦***, 富川淳子****, 山田健太*****, 有山裕美子*****

*専修大学 **専修大学 ***文教大学 ****跡見学園女子大学

*****専修大学 *****滋賀文教短期大学

*yashio@isc.senshu-u.ac.jp **takenori@isc.senshu-u.ac.jp ***shimizu1@bunkyo.ac.jp

****a.tomikawa@nifty.com *****yamada.kenta@nifty.com *****ariyamayumiko@gmail.com

発表者らは雑誌利活用教育（MIE : Magazine in Education）に着目し、雑誌の探究学習などにおける教材としての利活用や雑誌編集教育について、全国の学校・大学図書館を対象に質問紙による実態調査や、MIE の実証授業を行っている教員からのヒアリング調査および研究発表をもとに、教育効果や課題を分析・検討してきた。これまでの研究の取組と成果の一端について報告する。

An Empirical Study of MIE (Magazine in Education) in Schools and Libraries

Yashio UEMURA*, Takenori NOGUCHI **, Kazuhiko SHIMIZU***, Atsuko TOMIKAWA****

Kenta YAMADA*****, Yumiko ARIYAMA*****

*Senshu University ** Senshu University ***Bunkyo University ****Atomi University

***** Senshu University *****Shiga Bunkyo Junior College

1. はじめに

MIE=Magazine in Education とは、2018 年に植村によって提唱された雑誌の利活用教育の概念である[1]。MIE の研究と実践は広範囲におよぶ。MIE の研究分野について植村は、雑誌利活用の実態調査と雑誌活用の実証研究に大別している。ここではまず次節で、初等・中等教育での探究学習の資料としての雑誌利活用の実態を知るうえで基本資料となる学校図書館における雑誌の位置づけを簡単に述べる。次いで、MIE 研究の一分野である「雑誌作り」の事例研究を概観する。その後、雑誌編集授業のアクティブ・ラーニングとしての有効性やそのほかの教育効果とこの授業が抱える課題、さらに MIE の今後の展望を考察をする。

2. 学校図書館での雑誌

雑誌の教育的特性は、速報性の観点からも主題の深まりの観点からも新聞と図書の間位置す

る。このことは、雑誌が探究学習のバーサタイルな素材となる可能性を示している。2021年には高校の学校図書館では94.8%の購入率であるが、小学校では19.9%に減少する。子ども向け雑誌の発行タイトル数が近年減少していることも一要因としてあげられるが、2016年の文科省の学校図書館ガイドラインには雑誌も含まれているにもかかわらず、国の2022年の学校図書館図書整備等5か年計画での財政処置から雑誌が漏れている現状にも目を向けないわけにはいかないだろう[2]。

3. 雑誌編集授業の研究事例

3.1. 小学校での実践

軽井沢風越学園では、有山（当時・教諭）が小学校5, 6年生24名を対象とし、2021年9月1日～10月19日に2学期のテーマプロジェクト「ミニマガジンをつくる」を実施した。学内の共有カウンターに並べられた約200冊の雑誌に触れて興味

を持った雑誌を読むことからはじめ、3人グループでそれぞれの「好き」を探究する雑誌を作成した。表1、表4中面2ページの4ページである。途中、実務経験教員としての富川と清水がゲスト講師として生徒たちに直接指導を行った。企画、アポ取り、取材、執筆、デザインとすべて生徒たちが行った。生徒にとって高いハードルだったがプロジェクトは無事終了した。プロジェクトの設計時において、生徒間での編集作業への集中度の差をどのように解消するかが、今後の課題とされた。

3.2. 小学生向けの社会教育実践

MIEの主な展開の場は学校であろうが、教育の場は学校だけではない。社会教育としての実践例が、大宅壮一文庫の土屋潤子が行った小学生対象の雑誌教育である。コロナ禍で休校中、自宅で一人になるのを避けるため、職員の子である小学校高学年の2人が大宅文庫で日中の時間を過ごしていた。土屋は彼女たちを対象に雑誌についての3回の授業を試みた。その後、小学生が主体となりコロナをテーマにした手書きの雑誌『コロナのコロ』の制作にとりかかった。内容は「コロナへの自分たちの思い」という文章と、他の子どもたちへのコロナについての4つのテーマのアンケートなどだ。他の子どもたちの意見をまとめたりすることを通して多くの学びを得た。同誌第1号をコピーして同文庫館内や付近の小学校に配布したところメディアでの取材も受けた。マスコミ関係者や様々な年代・職業の来館者がいることや、小学生による発信の希少性に加え「コロナ禍の子どもたちの本音」への社会的な関心などが背景にあるのだろう。

3.3. 中学校での実践

都留文科大学の植田恭子は前職の大阪市立昭和中学校指導教諭のときに冊子・本作り授業に取り組んだ。この授業の狙いは「自己を見つめ、自己を表現する個人文集」を作成することである。3年

生の3学期に、カメラマンから写真撮影の仕方を学んだあと、電子書籍作成ソフトを活用して文集の編集に取りかかり始める。毎時間ごとにページの課題があり、生徒たちはそれに沿って考え、原稿を書き、レイアウトを工夫してページを作り出す。雑誌編集授業によって、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業の目指す学びを実現することができた。

中学校での雑誌作り2例目はお茶の水女子大学附属中学校国語科の渡邊光輝の授業である[3]。植田と同様、国語科の授業を工夫して2年生を対象に、「戦争の記憶を受け継ぐ」を特集テーマとし、4人1グループで1人2ページを担当して1冊を作成する。1,2時間目は企画を考える。3,4時間目は構成ラフを描く。5時間目は戦争体験者にインタビュー。6時間目は編集会議で最終テーマが絞れない、あるいは素材が集まらないなど雑誌を作る上で直面する問題を解決し、7,8時間目で誌面を作成、9時間目はそれぞれのグループの雑誌を見せ合うというスケジュールである。「雑誌は自由度が高いために、生徒の多様な発想やアイデアといった表現意欲を引きだしやすかった。また、雑誌は読者層を意識するという明確な相手意識を伴った活動であるという点も国語の学習活動をリアリティのあるものにする」と国語授業としての雑誌編集授業を評価する。

いち早く授業のICT化に取り組む工学院大学附属中学校・高等学校の中学2年生を対象に2018年に有山裕美子教諭（当時・教諭）は「総合的な学習の時間」の授業内で雑誌作りを行った。4人のグループで4ページの雑誌をアプリケーションのpagesを使って作成し、文化祭で展示・配布終了後、電子書籍にして電子図書館にアップロードした。事前に生徒たちは市販の雑誌の見開きページにトレーシングペーパーをおいてタイトルや本文、写真やイラストなどをトレースし、雑誌のページを構成している要素を「手から読む」体験もした。

3.4. 大学での実践

文教大学の清水は、前任校江戸川大学から現在まで、3年生のゼミナールで夏前から冬までを使って4色64~72ページのムックを作っている。清水は元雑誌編集者である。年度によりまちまちだがゼミ生は数名から10名以内である。企画立案、アポ取り、取材撮影、執筆、デザイン、製本まで大学の設備を使用してすべて学生たちが行う。誌面は学生同士で「伝えたいことがあるのかどうか。それが表現されているのかどうか」を確認しあい、授業以外にも時間をとって何度も記事構成、ラフ描き、取材を重ね、失敗を繰り返しながら誌面を仕上げていく。教員は、方法論は指導するが作成の旗振りはいしない[4]。

2例目は目白大学牛山佳菜代の3年生のゼミでの冊子作りプロジェクトである。牛山も実務家教員である。小冊子作成の目標は学生の情報発信能力向上、チームワークの構築、就職活動への寄与、さらに形に残す大切さを伝えるためとしている。12名のゼミ生がチームに分かれ、メンバーがページごとに企画を考え、アポ取り、取材、記事執筆、そしてレイアウトなど、ほぼ全てのプロセスを学生たち自身が行う。半年間をかけてカラー44ページの冊子をつくり200部を配布している[5]。

富川は跡見学園女子大学文学部文化表現学科の後期課程必修選択授業「ライティング特殊演習」で課題として2012年からカラー20ページの雑誌『Visions』の制作を行っている。富川も雑誌の元編集者である。富川は授業目標を「社会に出たときに、大学で一体何を学んできたのかと非難されない実践力養成」におく。清水や牛山と同様、教員は雑誌作りの知識や技術的なことは指導するが、学生主体で雑誌作りを進める。異なる点は、学生はプロのカメラマン、デザイナー、校正者と組むことである。その結果、学生はアシスタントや仕事の一部を手伝うインターンではなく「社会人として仕事すること」が求められる[6]。

聖徳大学短期大学部で非常勤講師を勤めるフリー編集者の大曾根薫は1年生対象の「出版文化論」で「出版社の仕組み」「著作権知的財産権」などの講義に加え、大学からの要請で「取材の基礎」や

「撮影の技術をプロのカメラマンから学ぶ」など雑誌編集の技術が学べる授業も行う。2年生対象の通年授業「編集技法Ⅰ,Ⅱ」ではIllustrator, Photoshop, InDesignなどDTPソフトの習得レベルを上げるために春学期は個人作品（レシピブック）を制作しPDFにする。雑誌編集授業は秋学期に行う。完成品は紙ではなくPDFとなるが、グループ作品として8ページ、オールカラーのキャンパス情報誌を制作する。

元雑誌編集者である江戸川大学本多悟は専門ゼミナールの授業で毎年3年次4月より雑誌制作を開始し、11月の学園祭で発表する。雑誌の基本サイズはA4判で、中綴じ、64ページ、全4色である。マスコミへ就職を望む学生に対応するという学科の方針を反映させ「DTPルーム」にはプロ用の一眼レフカメラやiMac 27inch×8, OKIマイクロライン C930 プリンター、ソフトとして、InDesign, Photoshop, illustratorなど少人数のゼミ学生にとっては十分な機材を常備し、学内で印刷・製本まで行う。

烏有書林代表上田宙が実践する武蔵野大学での授業で最も特徴的なのは、記事執筆者と、それを編集・レイアウトする担当者を別にしてしている点である。記事執筆者は自分の原稿を担当編集者に託し、同時に他のメンバーが書いた原稿を受け取って編集・デザインを担当する。このようにして、すべての履修生が著者役と編集者役の両方を体験する。難易度は上がるが、担当編集者として他学生著者とコミュニケーションをとりながら誌面をつくっていくことで、自分の作品を他者に預け、また他者の作品を預かることの難しさや楽しさを知ることができる。

4. アクティブ・ラーニングの視点に立った雑誌編集授業の効果

上述の小学校、中学校における雑誌編集授業は、改訂指導要領が目指す1.学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性など、2.実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能、3.

未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力など3点をかなえる「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」を具現化しているといえるだろう。

また大学の雑誌編集授業においては、情報の収集・加工・伝達能力の獲得、ジャーナリズム思考の体得、共同作業による主体性と協調性の育成、取材経験による対人的コミュニケーション能力の獲得、雑誌の発行による社会的責任感と影響力の実感などがあげられ、実社会での実務に役立つ。

これらの教育効果をもたらす「雑誌作り」特有の要因として以下の3点が挙げられる。一つは雑誌作りには「これでいい」という正解がないので、主体的に思考すると同時に読者を含めた多様な関係者との深いコミュニケーションが必須である。二つめには「記事の構成要素の豊富さ」である。テキストとヴィジュアルを平面構成するには、高度な構成力が必要とされる。さらに、作品として残り、周りから評価を得られることは学習のモチベーションを高めることになる。

5. 雑誌作り授業の課題

しかし、雑誌作り授業には課題もある。取材や撮影、デザインなど多様なプログラムをこなすには時間がかかる。次に、指導の難しさである。これについては、MIE研究の一貫として指導者用マニュアルを作成した[4]が、出版社などの実務者や実務経験者と学校教育を結びつける方策があればベターである。また、取材経費や機材・ソフトウェアも必要となり費用負担の問題もある。

6. MIEの課題と今後

本稿ではMIEの一分野である雑誌作りに軸足を置いた。だが、言わずもがなであるがMIEの領域はそれにとどまらない。しかもMIEはまだ始まったばかりである。先行するNIEから学ぶべきことは多いし、出版業界の協力なしには難しい。すでに日本雑誌協会と大宅壮一文庫の関係者が

MIEの研究メンバーに加わっているが、MIE普及のためには出版業界からの指導者の派遣など広範な協力推進と同時に文部科学省など行政の理解も必要である。また他国との比較検討も視野にいれるべきだろう。これについては、すでに米国でのMIE実態調査を実施し現在資料を分析中である。

※本研究は科学研究費助成事業 令和1～3年度基盤(c)(課題番号19K12723)「学校図書館を中心とした雑誌利活用教育の実態・可能性に関する実証研究」によるものである。

注・文献

- [1]植村八潮. “教育現場に雑誌を!”: 新文化, 新文化通信社, 2018年1月18日号.
——“MIE(教育に雑誌を)”運動の提案と考察—市場縮小に伴う雑誌リテラシーの衰退”: 専修大学人文科学研究所月報, 専修大学人文科学研究所, 2018, p.39-49.
- [2]野口武悟. “MIEとは何か: その意義と可能性”: 第43回全国学校図書館研究大会, 2022
- [3]渡邊光輝. “中学校国語科における編集力を高める授業の開発—単元「戦争の記憶を受け継ぐ」授業の記録—”: 授業実践開発研究, 8, 千葉大学教育学部授業実践開発研究室, 2015, p.88-98
- [4]清水一彦. “MIEでの雑誌作り: 教員・指導者用マニュアル”: 情報研究, 64, 文教大学, 2021, p.19-34
- [5]牛山佳菜代. “ゼミ活動における長期プロジェクトの実施効果と今後の可能性”: ビジネス実務論集, 35, 日本ビジネス実務編集委員会, 2021, p.37-47
- [6]富川淳子. “跡見学園女子大学を例に大学の出版教育における冊子制作授業のあり方を考察する”: 出版研究, 47, 日本出版学会, 2016, p.91-96

【予稿集】

ChatGPT による日本十進分類法（NDC）の分類記号付与の試み**—一般補助表（形式区分、地理区分、海洋区分、言語区分）の付加—**

角田裕之

鶴見大学文学部

tsunoda-h@tsurumi-u.ac.jp

本研究は ChatGPT による図書のタイトルから NDC の分類記号を生成する試みである。主題の用語と区分を含むタイトルについて、分類記号に一般補助表（形式区分、地理区分、海洋区分、言語区分）を付加する指示文（プロンプト）を ChatGPT に入力し、分類記号を生成させた。タイトルから主題を識別し、分類項目名と各区分項目名を判定するプロンプトを記述した。ChatGPT は構築した知識体系に基づいて分類項目名や区分項目名を判定して分類記号を生成していることを確認した。

**An attempt at assigning classification codes for Nippon Decimal Classification (NDC)
using ChatGPT**

**-Addition of Systematic Auxiliary Tables (Form Division, Geographic Division, Sea
Division, and Language Division)-**

Hiroyuki TSUNODA

School of Literature, Tsurumi University

1. はじめに

OpenAI から提供されている ChatGPT は、Web 等で収集した大量のテキストデータを基にトレーニングされた対話型テキスト生成 AI (Artificial Intelligence) である[1]。利用者はプロンプトと呼ばれる指示文を入力し、ChatGPT が回答し、この手順の繰り返しにより、対話を深めていく。ChatGPT は高度な自然言語処理技術であるため、公開されてから学術分野だけでなく、企業などでも利用されている[2]。ChatGPT は AI のトレーニングデータに Web の情報を利用していることで著作権法や個人情報保護法に抵触する可能性がある[3]。また利用者の質問に応じてテキストやプログラムを生成することから、授業のレポートを作成することも可能となり、教育上の課題も浮上している。ChatGPT に対する大学での対応は、利用制限から積極的な活用まで様々である。

本研究では、ChatGPT が図書のタイトルから生成する分類記号について考察する。情報資源組織における主題分析による分類記号の付与は、テクニカルサービスの一つで、目録作成業務に含まれる。目録作成の専門性を高めるには相応の経験と期間を積むことが必要であり課題でもある。集中目録・分担目録および各館でのオリジナル目録の作成業務においても分類記号の付与は必要となる。迅速で正確な作業が望まれており、AI による自動化が実現できれば、目録作成業務の一助になり得る。しかしながら、分類記号を付与するシステムの開発は、研究段階であり未だ実践段階には至っていない[4]。ここでは、ChatGPT のプロンプトと呼ばれる指示文から回答文を生成する。法令に配慮し、プロンプトに著作物や個人情報を含めず、同情報を含む回答を求めない。しかしながら、「情報資源組織論」および「情報資源組織演習」における課題に関する回答事例が含まれるので、関係者は注意されたい。

2. 方法

本研究ではGPT-3.5（無料版）を使用した。日本十進分類法新訂10版（NDC）に基づく分類記号を生成するプロンプトを作成した。分類記号の付与を試みるタイトルに主題と区分項目名を示す用語を含む仮想の図書を設定した。プロンプトは、①分類記号の付与の手順、②細目表の分類項目名と分類記号、③一般補助表の区分項目名と区分記号の三つの要素で構成した。

2.1 形式区分

主題を示す分類記号を選択し形式を示す形式記号を付加するプロンプトを示す。分類記号は3番目と4番目の間にピリオドを付す。分類記号の末尾に0が付されている場合には、それらはないものとする。ただし、例外適用法は記述しない。

図書のタイトルに分類記号（主題と形式区分）を付与する方法を示す。

(1)から(4)まで指示に従って順に処理する。

(1)主題決定：(1a)に進む。

(1a)図書タイトルから主題を示す用語を決定し(1b)に進む。

(1b)用語から分類項目名を選び分類記号を得て(2)に進む。

(2)分類記号：(2a)に進む。

(2a)分岐条件：主題の分類記号を100で割った余りが0と等しければ(2b)に進み、主題の分類記号を100で割った余りが0と等しくなければ(2d)に進む。

(2b)分類記号の末尾の0をひとつ削除し(2c)に進む。

(2c)分類記号の末尾の0をひとつ削除し(3)に進む。

(2d)分岐条件：主題の分類記号を10で割った余りが0と等しければ(2e)に進み、主題の分類記号を10で割った余りが0と等しくなければ(3)に進む。

(2e)分類記号の末尾の0をひとつ削除し(3)に進む。

(3)形式記号：(3a)に進む。

(3a)図書のタイトルから形式区分項目名を選び形式記号を得て(3b)に進む。

(3b)分類記号の後に形式記号を付加し(4)に進む。

(4)分類記号が4文字以上になら左から3文字の後にピリオドを加え(5)に進む。

(5)分類記号の付与完成：分類記号を示す。

分類項目名と分類記号を次に示す。

図書館・図書館学：010，博物館：069

形式区分項目名と形式記号を次に示す。

年表：032，辞書・事典・百科事典：033

2.2 地理区分

主題を示す分類記号を選択し形式記号02に続けて地理記号を付加するプロンプトを示す。ただし、*地理区分を伴う分類項目、範囲項目となっている分類項目における分類記号に直接地理記号を付加する方法、日本地方区分、相関索引で△を含む分類記号における地理記号の置き換えは記述しない。

図書のタイトルに分類記号（主題と地理区分）を付与する方法を示す。

—(1)(2)略—

(3)地理区分（地理記号と呼ぶ）：(3a)に進む。

(3a)図書のタイトルから地理区分項目名を選び、地理記号を得て(3b)に進む。

(3b)主題の分類記号の後に形式記号の02を続けて連結し(3c)に進む。

(3c)形式記号の02を付加した分類記号の後に地理記号を続けて連結し(4)に進む。

—(4)(5)略—

分類項目名と分類記号を次に示す。

図書館：010，原子力工学：539

地理区分項目名と地理記号を次に示す。

イギリス：33，オーストラリア：71

2.3 海洋区分

主題を示す分類記号を選択し海洋記号を付加するプロンプトを示す。ただし、所与の分類記号からコンマを削除した。

図書のタイトルに分類記号（主題と海洋区分）を付与する方法を示す。

—(1)(2)略—

(3)海洋区分（海洋記号と呼ぶ）：(3a)に進む。

(3a)図書のタイトルから海洋区分項目名を選び、海洋記号を得て(3c)に進む。
 (3c)分類記号の後に海洋記号を連結して(4)に進む。
 —(4)(5)略—
 分類項目名と分類記号を次に示す。
 海洋気象：45124，海洋誌：4522，海集：55778
 海洋区分項目名と海洋記号を次に示す。
 太平洋：1，日本海：23

2.4 言語区分

主題を示す分類記号を選択し言語記号を付加するプロンプトを示す。ただし、相関索引で口を含む分類記号における言語記号の置き換えは記述しない。

図書のタイトルに分類記号（主題と言語区分）を付与する方法を示す。

—(1)(2)略—
 (3)言語区分（言語記号と呼ぶ）:(3a)に進む。
 (3a)図書タイトルから言語区分項目名を選び、言語記号を得て(3b)に進む。
 (3b)分類記号の後に言語記号を付加し(4)に進む。
 (4)ピリオド：(4a)に進む。
 (4a)分岐条件：分類記号が 1000 以上なら(4b)に進み分類記号が 999 以下なら(4c)に進む。
 (4b)左から 3 文字の後にピリオドを加え(5)に進む。
 (4c)分岐条件：分類記号が 99 以下なら(4d)に進み分類記号が 100 以上なら(5)に進む。
 (4d)分類記号の後に 0 を付加し(5)に進む。
 —(5)略—
 区分項目名と分類記号を次に示す。
 言語：800，文学：900
 言語区分項目名と言語記号を次に示す。
 日本語：1，英語：3

3. 結果

各区分で図書のタイトルに分類記号を付与する指示を加えたプロンプトから ChatGPT が生成したテキストである。しかしながら、ChatGPT が生成するテキストは精度にムラがあり、本研究で

はプロンプトに従った実行結果のみを示した。

3.1 形式区分

図 1 は『図書館学辞典』および英語版とドイツ語版のタイトルから生成されたテキストである。

指示に従って順に処理を進めていきます。

(1) 主題決定:
 (1a) 図書タイトルから主題を示す用語を決定し、(1b)に進む。
 図書のタイトル『図書館情報学辞典』からは、「図書館情報学」が主題となります。

(1b) 用語から分類項目名を選び分類記号を得て、(2)に進む。
 主題「図書館情報学」に対応する分類項目名は「図書館・図書館学」で、分類記号は010となります。

(2) 分類記号:
 (2a) 分岐条件: 主題の分類記号を100で割った余りが0と等しければ(2b)に進み、主題の分類記号を100で割った余りが0と等しくなければ(2c)に進む。
 分類記号010を100で割った余りは10と等しくないので、(2d)に進みます。

(2c) 分岐条件: 主題の分類記号を10で割った余りが0と等しければ(2e)に進み、主題の分類記号を10で割った余りが0と等しくなければ(3)に進む。
 分類記号010を10で割った余りは0と等しいので、(2e)に進みます。

(2e) 分類記号の末尾の0をひとつ削除し、(3)に進む。
 分類記号01の末尾の0を削除し、分類記号01のまま(3)に進みます。

(3) 形式記号:
 (3a) 図書のタイトルから形式区分項目名を選び形式記号を得て、(3b)に進む。
 図書のタイトル『図書館情報学辞典』に対応する形式区分項目名は「辞書・事典・百科事典」で、形式記号は033となります。

(3b) 分類記号の後に形式記号を付加し、(4)に進む。
 分類記号01の後に形式記号033を付加し、分類記号01033となります。

(4) 分類記号が4文字以上になった場合、左から3文字の後にピリオドを加える。
 分類記号01033は4文字以上なので、左から3文字の後にピリオドを加え、010.33となります。

(5) 分類記号の付与完成: 分類記号を示す分類項目名と分類記号を示す。
 『図書館情報学辞典』の分類記号は010.33です。

したがって、『図書館情報学辞典』に分類記号を付与すると、010.33となります。

したがって、『Dictionary of Library and Information Science』の分類記号は「010.33」となります。

したがって、『Wörterbuch der Bibliotheks- und Informationswissenschaft』の分類記号は「010.33」となります。

図 1：生成された分類記号 010.33

3.2 地理区分

図 2 は漢字や国定義語で表示された図書館を主題として図書のタイトルから生成されたテキストである。

したがって、図書のタイトル『豪州の図書館』には分類記号「010.271」が付与されます。

『グレートブリテン及び北アイルランド連合王国の図書館』の分類記号は「010.233」となります。

図 2：生成された分類記号 010.271 と 010.233

3.3 海洋区分

図3は海洋区分の対象となる主題図書のタイトルから生成されたテキストである。

したがって、図書のタイトル『パシフィックオーシャンの海洋気象』には分類記号「451.241」を付与します。

図3：生成された分類記号 451.241

3.4 言語区分

図4は漢字や同義語の言語表記図書のタイトルから生成されたテキストである。

したがって、図書『英米文学』の分類記号は「930」となります。

したがって、図書のタイトル『やまとことば』には分類記号810が付与されます。

図4：生成された分類記号 930 と 810

4. 考察と結論

プロンプトには分類記号を付与する手順の文章化、文章の実行の順序、条件による分岐を正確に示した。実行順序を明確に指定するため、(アラビア数字)、(アラビア数字とアルファベット)の文番号を先頭に置いた。各文には次に実行する文番号を示した。細目表の分類項目名と分類記号、及び、一般補助表各区分の項目名と区分記号は、コロンとコンマで区切を示した。図書の主題を示す用語や区切り記号を示す用語は、図書のタイトルの用語と比較され、分類記号と区分記号を取得するように記述した。生成された分類記号の桁数を判定し、3桁以下であれば末尾に0を付加し、4桁以上であれば、3番目と4番目にピリオドを付すように記述した。ここでのプロンプトの機能を整理すると所与されたデータを指示に従って変換するプログラムとも言える。つまり、与えられた主題と区分からデータを取得し、タイトル中の有無を判定し、分類記号と各区切り記号を決定し、適用法に従って分類記号を生成する処理するプログラムである。

しかしながら、ここでの用語の判定はプログラムに記述されてデータだけでは実現できない。例

えば、主題を示す用語の判定では、図書館情報学から図書館・図書館学、「ことば」から「言語」が正しく選ばれた。同様に、各区分を示す用語の判定でも、辞典、Dictionary, Wörterbuch から辞書・事典・百科事典、豪州からオーストラリア、グレートブリテン及び北アイルランド連合王国からイギリス、パシフィックオーシャンから太平洋、英米から英語、「やまと」から「日本語」が正しく選ばれた。これらの用語の判定は単純でなく、ChatGPT が構築した知識体系に基づいて実現していると推察する。実用的な自動分類記号付与を実現するには語彙の解釈、著者や出版者の専門性、目次や内容紹介情報の解釈など解決すべき課題が多い。しかしながら、今後も生成 AI の開発は継続され、多様な情報でトレーニングされた生成 AI が新たな知識を構築し、自動分類の精度が一段と高まると考える。

注・文献

- [1] OpenAI. "Introducing ChatGPT". <https://openai.com/blog/chatgpt>, (accessed 2023-05-03).
- [2] Kalla, Dinesh; Smith, Nathan. Study and Analysis of Chat GPT and its Impact on Different Fields of Study. International Journal of Innovative Science and Research Technology. 2023, vol.8, no.3.
- [3] Lund, B. D.; Wang, T.; Mannuru, N. R.; Nie, B.; Shimray, S.; Wang, Z. (2023). ChatGPT and a New Academic Reality: Artificial Intelligence-Written Research Papers and the Ethics of the Large Language Models in Scholarly Publishing. Journal of the Association for Information Science and Technology, 2023, vol.74, no.5, p.570- 581.
- [4] Kim, J.; Lee, K. Designing a Knowledge Base for Automatic book classification. The Electronic Library. 2002, vol.20, no.6, p. 488-495.

【予稿集】

Alexa とおばあちゃん

江頭満正

理化学研究所計算宇宙物理研究室 mitsumasa.eto@a.riken.jp

AMAZON が開発したスマートスピーカーAlexa を、義父を亡くして一人暮らしになった義母の家に設置した。義父はスマートフォンで孫たちと TV 通話を楽しんでいた。同様に義母も TV 通話や、天気予報、照明の消灯などに活用すると予想していた。ところが、私達の予想と異なる使用方法をし、毎日活用している。義母の 11 ヶ月間全使用履歴から、高齢者のスマートスピーカー活用を考察する。

How did grandma enjoy Alexa

Mitsumasa ETO

Computational Astrophysics, RIKEN

1. はじめに

スマートスピーカーの利用率は、日本国内で 12.1%、認知率は 80.3%[1]となり、私達にとって特殊なデバイスでは無くなった。

スマートスピーカーは、声による操作が可能であり、既存家電のリモコン操作を代替する機能もある。この利便性を高齢者はどう評価するのか、著者の義母である「おばあちゃん」の自宅に設置しその利用状況を観察した。「おばあちゃん」は義父を亡くし独居になっておよそ 1 年が経過していた。義父はスマートフォンで孫たちと TV 電話を楽しんでいた。著者らは設置時に、スマートスピーカーの主な使用用途は、義父同様「TV 電話」と、リモコン操作の代替を想定していた。加えて室内の照明点灯機能をスマートスピーカー（以降 Alexa と表記）に付加し、使用価値を上げたつもりだった。

高度な音声コントロールシステムを装備した、スマートホームは高齢者の生活を快適にする可能性がある、という研究は実験によりエアコン、照

明、TV などリモコンで行っていた。家電の操作は、特に快適性を感じていた[2]という肯定的な研究存在する一方で、高度な音声コントロールシステムを装備した、スマートホーム居住者は、デバイスの選択、制御に関する利用と、デバイスが利用者の想定通りに作動しない際の指示が多かった[3]。という指摘もあり、「おばあちゃん」が Alexa を、積極的に使う保証は無かった。また、スマートスピーカーは、聞き取りやすいマイクを搭載しているため、プライバシーに関する懸念も指摘されている[4]。常時監視されている可能性を感じている利用者也存在することもあり、不安材料には事欠かなかった。

一方で独居になった「おばあちゃん」は、一人暮らしに起因する問題が増加しており、孤独、社会的孤立、社会的活動の減少に関連するこれらの問題は、高齢者の精神的健康、うつ病、社会的絆に関連している[5, 6]。Alexa を介していても、社会との関わりを促進することは、より複雑な相互作用を行う動機付けとなり、認知能力を活性化し、良好な精神的健康を維持するのに役立つ[7]。

といった孤独や寂しさなどを緩和する可能性にも期待した. 加齢とともに起きるルツハイマー病に関連する認知機能の変化に悩むユーザーに対して、社会的支援ロボットに認知機能低下防止適応させることで、患者の興味を引き、ロボットとの対話に興味を持たせ、その結果、患者の積極的な行動を増加させることができることが示された研究[8]や、高齢者の声は自然に軽度の言語障害に似た状態になるが、スマートスピーカーをコントロールするためには、大きな声でハッキリと正確な構文で指示する必要がある、高齢者の言語能力の低下を予防する効果が期待出来る研究[9]など健康維持にも期待した. スマートホームは高齢者の生活を快適にする可能性がある [2] 実験では家電の操作に、特に快適性を感じていたことも確認されており、利便性を重視した Alexa と、その周辺機器を設置した.

設置は研究者である著者と「おばあちゃん」の信用が厚い孫（男子高校生）の2名で実施し、使い方は孫が、手書きのマニュアルを作成した.

2、参与観察

Alexa には、過去の操作履歴を記録する機能があり、操作者の「声」が録音されている. そのため Alexa 操作の 5W1H を確認することが可能だ. 2022 年 7 月 22 日から 2023 年 6 月まで 2200 以上の全使用履歴を分析し、独居生活になって間もない「おばあちゃん」が Alexa をどのように使用したか究明することとした.

著者らは先行研究や、設置時の周辺機器などから、TV 電話機能と家電操作が中心になると仮説を立てていた.

3、結果

2022 年 7 月から 2023 年 6 月まで 2249 件の指示記録をテキストマイニングした結果が図 1 である.

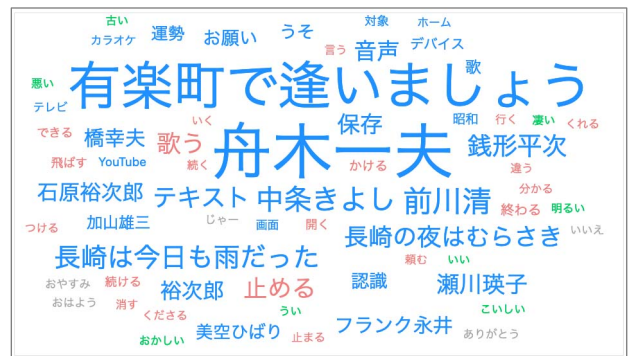


図1:テキストマイニング結果

表1:単語出現回数

名前	スコア	出現回数	名前	スコア	出現回数
舟木一夫	5988.16	426	歌う	191.39	178
有楽町で逢いましょう	4848.45	305	止める	203.79	125
お願い	192.21	256	終わる	23.44	112
テキスト	611.11	134	できる	13.48	105
保存	212.53	134	行く	5.28	84
前川清	1350.10	126	かける	16.24	57
音声	423.56	123	言う	1.54	43
歌	141.30	121	続ける	9.85	33
中条きよし	1109.38	97	くださる	1.67	29
隙間	191.34	97	開く	7.52	24
長崎は今日も雨だった	989.70	99	つける	1.60	20
うそ	167.82	81	飛ばす	8.83	17
銭形平次	730.52	67	頼む	2.68	15
長崎の夜はむらさき	547.53	62	いく	0.44	15
裕次郎	275.44	56	分かる	0.74	14

表 1 に「おばあちゃん」が Alexa に指示をした単語出現回数を示す. 「おばあちゃん」は Alexa を、オーディオ機器として活用していた. 著者らの仮説は肯定されず、TV は設置前と変わらずリモコンで操作され、照明機器も既存のスイッチで点灯・消灯操作が行われていた. 天気予報などの情報検索も行われていない. TV 電話機能に関しては、著者らから接続することはあったが、「おばあちゃん」が主体的に使用することは無く、近況報告や雑談なども電話で行われ、Alexa が設置された事による変化は確認できなかった.

仮説に反し、「おばあちゃん」は、オーディオ再生機器として頻繁に Alexa を使用した. 毎日昭和世代の楽曲を Alexa で検索し、楽しんでいた.

4、考察

70 代の単身世帯では、スマートスピーカーの継続利用が有意であり、孤独感の解消や、スマートスピーカー用いたヒューマン・マシン・インタラクションが、高い意味伝達性によって高い水準に

達する[10]研究がある。「おばあちゃん」は Alexa に慣れてくると、機械に向かって命令する話し方から、人に対する話し方に変化しており、Alexa を擬人化していた可能性がある。ただしストレスもあった様だ。スマートホーム居住者は、デバイスが利用者の想定通りに作動しない際の指示が多かった[3]。という研究の指摘通り、Alexa の許容範囲を越えた指示を出している。逆説的に見ると、「擬人化」しており Alexa が万能であると認知している発言でもある[11]。

Alexa には、TV 電話機能と家電操作に加え、買い物、検索などの機能もあったが、音楽再生機器以外の機能は使用記録から確認されていない。80 歳を超える「おばあちゃん」にとって、スマートスピーカー以外のデバイスで、「舟木一夫」や「美空ひばり」「フランク永井」の楽曲を聞く為には、いくつかの操作が必要になる。CD を購入し、CD プレイヤーを操作しなくてはならない。金銭的な出費もあるが、リモコンが増加すること、操作を覚えることにもストレスがある。それに比べ Alexa は、声で指示すれば数秒で音楽を再生してくれるのである。Alexa の場合、月額数百円で 1 億曲が自由に聴けるようになる。Alexa の音楽再生機器としての利便性は既存オーディオ機器と大きな違いがある。

「おばあちゃん」は Alexa を使いこなしていることを、友人に自慢し承認欲求を満足させている。2022 年 7 月は、新型コロナウイルスの感染拡大により、高齢者が面会出来る社会状況では無かった。義父を失って間もない「おばあちゃん」は友人に電話をかけて「あなたの好きな音楽を今すぐに聞かせてあげる」と言い、Alexa に指示を出し電話相手に聞かせている。友人に電話を掛けるきっかけにもなった様だ。

参考文献

[1]LINE リサーチ <https://lineresearch-platform.blog.jp/archives/41524745.html> (参照 2023-6-12)。

「おばあちゃん」の Alexa 使用頻度は減少傾向にある。当初懐かしかった「舟木一夫」も聞き飽きた可能性があり、操作記録からは新曲へ興味を示している形跡はない。

スマートスピーカーにおいて音楽再生はよく使われる機能だ。しかし新しいコンテンツに出会う機能が少なく、アーティストやタイトルを検索したり、楽曲をプレイリストに保存したり、声だけで行うには、ユーザビリティが著しく低いことも指摘されている[12]。

5、結論

本研究では独居高齢者にとって、利便性より、エンタテインメントが重要であることが示された。日がな一日テレビばかりでは、楽しくないという。午後の時間帯に放送されている、情報ワイドショーには明るい話題が少ない。80 歳を超えるとドラマの再放送も、好んで観なくなる。計算されたエンタテインメントよりも、グルメや旅番組、ショッピング番組などが、楽しみになるそう。固定化された毎日の中に Alexa が音楽を提供し、しかも主体的に操作出来る自由度が気に入った様子だ。今までも新製品をヒットさせるためには、エンタテインメントのコンテンツがきっかけを作ってきた。ビデオデッキも、ゲーム機器もそう。

たった 1 人の事例でしか無いため、参考程度にしかならないが、デバイスに苦手意識のある高齢者がスマートスピーカーを満喫する方向性が示された。スマートスピーカーの延長線上にあるスマートハウスなども、エンタテインメントを核にした QOL を検討する必要があるのではないだろうか。

[2]Portet, François, et al. "Design and evaluation of a smart home voice interface for the elderly: acceptability and objection aspects." *Personal and Ubiquitous Computing* 17 (2013): 127-144

- [3]Geeng, Christine, and Franziska Roesner. "Who's in control? Interactions in multi-user smart homes." Proceedings of the 2019 CHI Conference on Human Factors in Computing Systems. 2019.
- [4]Huang, Yue, Borke Obada-Obieh, and Konstantin Beznosov. "Amazon vs. my brother: How users of shared smart speakers perceive and cope with privacy risks." Proceedings of the 2020 CHI conference on human factors in computing systems. 2020.
- [5]Palmer D, Newsom J, Rook K (2016) How does difficulty communicating affect the social relationships of older adults? An exploration using data from a national survey. Journal of Communication Disorders, 62:131-146.
- [6]Reis A, Lains J, Paredes H, Filipe V, Abrantes C, Ferreira F, Barroso, J. (2016). Developing a System for Post-Stroke Rehabilitation: An Exergames Approach. In International Conference on Universal Access in Human-Computer Interaction (pp. 403-413). Springer International Publishing.
- [7]Bassuk S, Glass A, Berkman F (1999) Social disengagement and incident cognitive decline in community-dwelling older persons. Annals of Internal Medicine, 131, 165-173.
- [8]Tapus, Adriana, Cristian Tapus, and Maja J. Mataric. "The use of socially assistive robots in the design of intelligent cognitive therapies for people with dementia." 2009 IEEE international conference on rehabilitation robotics. IEEE, 2009.
- [9]Young, Victoria, and Alex Mihailidis. "Difficulties in automatic speech recognition of dysarthric speakers and implications for speech-based applications used by the elderly: A literature review." Assistive Technology 22.2 (2010): 99-112.
- [10]Kim, Hyejoo, et al. "Toward Smart Communication Components: Recent Advances in Human and AI Speaker Interaction." Electronics 11.10 (2022): 1533.
- [11]Geeng, Christine, and Franziska Roesner. "Who's in control? Interactions in multi-user smart homes." Proceedings of the 2019 CHI Conference on Human Factors in Computing Systems. 2019.
- [12]Habler, Florian, Marco Peisker, and Niels Henze. "Differences between smart speakers and graphical user interfaces for music search considering gender effects." Proceedings of the 18th International Conference on Mobile and Ubiquitous Multimedia. 2019.

【予稿集】

公開査読(OPR)を実施しているプラットフォームの Web 調査

井野詩織*, 高久雅生**

*筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類 **筑波大学 図書館情報メディア系

*s2113594@u.tsukuba.ac.jp **masao@slis.tsukuba.ac.jp

著者のアイデンティティへの言及や、過度な査読期間の超過といった研究倫理問題などの背景から、解決手段の1つとして公開査読（Open Peer Review:OPR）の注目が集まっている。しかし F1000Research などといった OPR を実施しているプラットフォームの特徴や実態は明らかにされていない。したがって、本調査では、今後の OPR 研究の一助となることを目的として、国内外の OPR を実施しているプラットフォームの Web 調査を実施した。そして、その調査結果をもとに OPR を実施しているプラットフォームの実態を明らかにする。

Web survey on Open Peer Review platforms

Shiori INO*, Masao TAKAKU**

* College of Knowledge and Library Sciences, University of Tsukuba

** Institute of Library, Media and Information Science, University of Tsukuba

1. はじめに

近年、オープンサイエンスの潮流より、公開査読(OPR)という査読モデルに注目が集まっている。

OPR に明確な定義は存在せず、広範にわたる定義をレビューしたロス＝ヘラーは、OPR について“査読者や著者を公開すること、査読レポートを公開すること、査読プロセスへの参加機会を拡大することなど、オープンサイエンスの目的に沿って査読モデルを適応させるための、いくつかの重複した方法を表す包括的な用語である”^[1]と述べている。

佐藤は、ロス＝ヘラーと国際 STM 出版社協会 (STM)がそれぞれ作成した公開査読に関する用語集に共通する要素として、下記の5点を挙げている^[2]。

- 1：アイデンティティの公開
- 2：査読レポート等の公開
- 3：オープンなやり取り
- 4：査読前原稿の公開
- 5：最終版へのコメント機能

しかし、いずれも明確な定義ではないため、公開査読研究をする上で、雑誌やプラットフォームが公開査読をどのように定義づけているかは確認する必要がある。

以上のように、公開査読というオープンサイエンスの潮流の一つが注目を集めているが、このような研究成果の公開手段が消滅することへの懸念がある。西岡は OA ジャーナルの消滅について“OA ジャーナルの最後の刊行年からウェブからの消滅までの期間は、約3分の1が1年以

内、約4分の3が5年以内である。”^[3]と述べており、消滅したジャーナルやプラットフォームに掲載されていた論文は読めなくなる可能性が高い。

そこで、本研究では OPR プラットフォームについて、収録数や分野、言語といった基礎的な項目に加え、OPR プロセスから各プラットフォームにおける OPR の考え方や定義、OPR プラットフォームの永続性についても調査を行う。

2. 方法

本調査では、OPR プラットフォームについての文献調査と Web 調査を実施した。本研究における OPR のプラットフォームの定義は、“OPR を査読モデルとして採用しており、かつ投稿された研究成果へのオープンアクセスが可能である出版プラットフォーム”とする。そのため、運営元が出版社であった場合でも、OPR を実施するための独立したプラットフォームであれば調査対象とした。

文献調査では、OPR に関連する用語、および関係するプラットフォーム名称で検索した。

Web 調査では、すでに多くの文献で触れられているプラットフォーム以外は、文献調査の過程で発見したプラットフォーム^[4]を参考として調査した。調査項目は下記の6点である。調査期間は2023年6月14日～2023年6月19日である。

- | | |
|-------|-----------|
| 1：収録数 | 収録している論文数 |
| 2：分野 | 投稿対象とする分野 |

3：言語	投稿内容の言語
4：投稿条件	投稿者の所属や職業資金元
5：査読プロセス	公開査読の定義
6：期間	サービス提供期間

3. 結果

すべての調査はまだ終了していないため、ここでは予備調査の結果を表1に示す。現時点で調査したプラットフォームは7件であり、そのうち2件は消滅したプラットフォームであった。

アクティブなプラットフォームは5件であり、いずれも査読者は招待制であったが、査読コメントの公開にあたって、査読者のステータス公開(アイデンティティの公開)は、氏名と所属ともに公開とするプラットフォームと、査読者が選択可能としているプラットフォームが存在することが分かった。

消滅したプラットフォームは2件であり、いずれも提供期間とともに終了したことが明記されていた。そのうちの1件、mSphereDirectについては、mSphereでの新しい出版経路を探る試みとして、あらかじめ運用期間が1年間と決まっている、いわゆるパイロットプロジェクトのようなプラットフォームであった¹⁰。

4. おわりに

本研究では、OPRプラットフォームのWeb調査を行い7件のプラットフォームを対象とする予備調査の結果を報告した。

プラットフォームごとに公開の範囲、対象等の違いがみられたため、今後は、より調査対象を広げることで、他の項目とクロス集計するなど、包括的な結果と実態についてポスターにて報告

したいと考えている。

特に、消滅したプラットフォームについては、リンクが切れているプラットフォームも存在していることから、埋められない項目が多く、調査に難航することが予想される。また、実験的目的を持つプラットフォームについては、消滅という表現が適切か検討する必要がある。

以上のことから、消滅したプラットフォームについては調査対象を広げるとともに、項目について再検討する必要があると考えられる。

注・文献

- [1] Ross-Hellauer, T. What is open peer review? A systematic review [version 2; peer review: 4 approved]. F1000 Research. 2017, 6, 588, (参照 2023-06-19).
- [2] 佐藤翔, 動向レビュー: オープン査読の動向: 背景、範囲、その是非. カレントアウェアネス. 2021, 348, CA2001, <https://current.ndl.go.jp/ca2001>, (参照 2023-06-19).
- [3] 西岡千文, 消滅する OA ジャーナルと長期保存のための取り組み. カレントアウェアネス. 2020, 404, E2332, <https://current.ndl.go.jp/e2332>, (参照 2023-06-19).
- [4] Victoria Yan, Jessica Polka. ReimagineReview data. 2022, 6. <https://doi.org/10.5281/zenodo.6258801>, (参照 2023-06-19).
- [5] Michael J. Imperiale, Thomas Shenl, Stefano Bertuzzi. mSphereDirect: Author-Initiated Peer Review of Manuscripts. mSphere. 2016. 1,6, (参照 2023-06-19).

表1：調査結果

名称	論文数	分野	言語	投稿条件	査読プロセス	期間	
F1000 Research	6,516	自然科学、医学、工学、農学、獣医学、人文社会科学、芸術	自由	認定機関/認定組織に正式所属する著者のみが出版可能。	査読は招待制(公開前に基準を満たす最低5人の査読者を推薦する必要がある)論文と同時に査読レポート(査読者の名前と所属を含む)が公開される。		
Japan Institutional Gateway	31	全分野	英語 (人社会系は日英可)	最低1人の著者は、筑波大学がJIG関連機関に雇用/所属している研究者である必要がある。	査読は招待制(公開前に基準を満たす最低5人の査読者を推薦する必要がある)論文と同時に査読レポート(査読者の名前と所属を含む)が公開される。		
Wellcome Open Research	1,749	全分野	英語	著者のうち最低1人は、ウェルカムファンディングに正式所属している必要がある。	出版後に査読が行われる。出版後に査読者が招待され、査読は編集チームが管理する。各レビューと査読者が選択した承認ステータス、査読者の名前・所属が論文とともに公開される。		
The Winnower	1,321	AUTHOREAに買収された後に終了している。					2014年~2016年
Gates Open Research	447	ビル&メリンダゲイツ財団から資金提供を受けているすべての分野(世界保健、世界開発、世界政策と提言)	英語	Gatesが資金提供している研究者	出版後に査読が行われる。出版後に査読者が招待され、査読は編集チームが管理する。各レビューと査読者が選択した承認ステータス、査読者の名前・所属が論文とともに公開される。		
MedEdPublish	1,485	医療および保健専門職の教育に関連するすべて	英語	専門分野で積極的に活動する研究者、学者、教育者、臨床医であり、重要な貢献をした著者が含まれている必要がある。	出版後に査読が行われる。出版後に査読者が招待され、査読は編集チームが管理する。各レビューと査読者が選択した承認ステータス、査読者の名前・所属が論文とともに公開される。		
mSphereDirect (実験)		微生物科学にわたる学際的なオープンアクセス ジャーナルである mSphere での新しい出版経路を探る試み					2017年1月11日 (1年間)
※色のついているプラットフォームはサービスが終了している。							

※色のついたプラットフォームはサービスが終了している。

入会のご案内

本学会は、情報メディア研究の進歩発展に寄与することを目的に活動しております。情報メディアに関して研究しておられる方、または、特にこの研究分野に関心を持っておられる方は、本学会の会員になることができます。本学会への入会をご希望の方は、Web にて入会案内を公開しておりますので、ご覧ください。

入会案内 <http://www.jsims.jp/nyukai.html>

『情報メディア研究』への各種原稿の投稿

本学会では学会誌『情報メディア研究』を発行しています。情報メディア学会編集委員会では、会員の皆さまからの論文、研究ノート、資料の原稿のご投稿を随時受け付けております。ご投稿をご希望される方は、Webにてご案内しておりますので、ご覧ください。

『情報メディア研究』への各種原稿の投稿について <http://www.jsims.jp/toko.html>

[第22回研究大会企画委員会]

委員長	千 錫烈	関東学院大学
委員	天野 晃	国立情報学研究所
委員	佐藤 翔	同志社大学
委員	下山佳那子	八洲学園大学
委員	新藤 透	國學院大學
委員	西田 洋平	東海大学
委員	長谷川幸代	跡見学園女子大学
委員	日向 良和	都留文科大学

事務局長 上保 秀夫 筑波大学

情報メディア学会事務局

〒305-8550 茨城県つくば市春日1-2
筑波大学 図書館情報メディア系内